



インド知財局発行の 最新年次報告書の分析

2019年7月、インド特許意匠商標総局 (CGPDTM) が2017年度の年次報告書を発行しました。この報告書は、インドの知的財産に関する最も信頼できる最新情報の1つであり、2016会計年度になされた大規模な行政改革の後の最初の公式報告です。

背景

インドでの知財出願件数は過去5～6年間停滞していました。不振の主な理由は審査の遅れです。

そんな中、日東電工が2014年に特許付与手続きの遅延についてインド政府を訴え、それに端を発する形で、政府は2016年度に知財制度の大改革をおこないました。

特許、意匠および商標の全体的な出願動向

図1は、過去5年（会計年度）のインド知財局での出願受理傾向を示しています。

2017年度の出願件数は2016年度とほぼ同じでした。ただし詳しく見ると、2017年度には2016年度から約3%増加しました。意匠および商標出願でも同様のわずかな成長が見られました。

登録件数は図2にあるように2017年度に大幅に増加しました。付与された特許権数は32.4%増加し、意匠は約21%、商標は約20%増加しました。

外国人による特許出願の動向

インドでは現在、約70～80%の特許出願が外国の出願人によって行われています。図3にあるように、2017年度のPCT /パリルートの出願件数は、2016年度とほぼ同じでした。

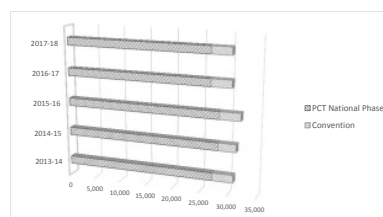
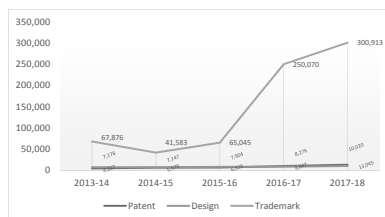
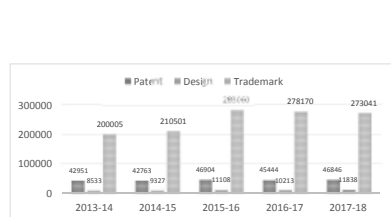


図1：インド知財局での出願傾向

図2：インド知財局での登録傾向

図3：インドにPCT /パリルートで出願された出願件数

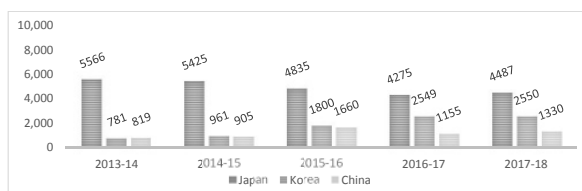
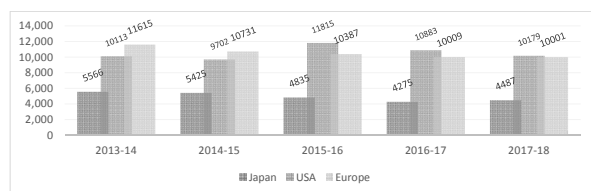


図4：インドにおける日米欧の出願人の出願件数の推移

図5：インドにおける日韓中の出願人の出願件数の推移

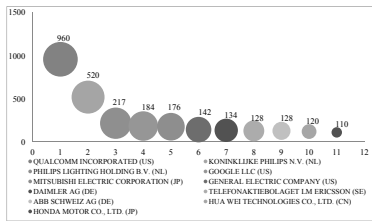


図6：2017年度の上位企業(外国出願人)

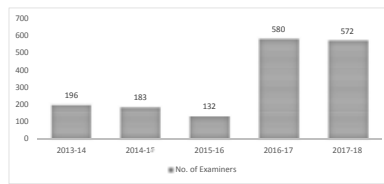


図7：インド知財局の審査官数

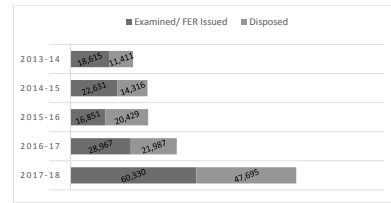


図8：インド知財局の審査着手・進行傾向

2016年度の制度改革は外国人による出願件数については即効性を示さなかったようです。

次に、インドへの日本からの出願傾向をアメリカ、ヨーロッパと比較します。また同様に、日本と韓国および中国とを比較します。

インドへの出願人群の内訳として、日本は、アメリカおよびヨーロッパに続く第3番目に大きな出願人群を構成しています。図4に示すように、日本からの出願件数は過去5年間で減少しており、この傾向はアメリカとヨーロッパの出願人にも見られます。

一方、図5にあるように、中国と韓国からの特許出願は増加傾向にあります。

図6は、2017年度の出願上位企業の比較です。

インドでの最大出願人の多くはアメリカ企業であり、一部、ヨーロッパの大企業がそこに食い込んでいます。日本企業としては、わずかに三菱電機と本田技研工業がランクインしています。

2017年度の特許審査の動向

2016年度の特許改革は、特許庁での審査能力強化のため、若手審査官の採用に重点を置いていました。図7はその結果を反映しています。2015年度まで100人台だった審査官が2016年度には一挙に500人を超えました。

図8は、インド知財局における特許出願審査の動向、より具体的には、最初の審査結果レポート（最初のオフィスアクションなど）が発行された出願の件数と、審査結果が確定して審査に係属しなくなった出願の件数とが

示されています。2017年度にインド知財局が審査着手した出願件数は5年前と比較して3倍以上となっています。処分が終わった（特許権が付与された、あるいは拒絶が確定した）出願の数は、2017年度は5年前から4倍程度増加しました。特許出願審査の遅延を軽減するために前向きな展開がなされてきています。

まとめ

最新の年次報告書によると、2016年の大改正後にも出願件数の伸びはたいしてみられないが、審査官の増員と、それにとまなう審査処理件数の増大、審査遅延の軽減がみとれました。日本からの出願件数が微減する一方で、中国企業と韓国企業は出願件数を増大させてきています。現状は、出願数トップは欧米企業がほとんどで、わずかな日本企業がそこに食い込んでいるのですが、近い将来、その景色は大きく変わっていくことが容易に推測できるところです。

筆者紹介



シティージ・マルホトラ (Kshitij Malhotra)

Global IP Indiaの創設メンバーで事務所代表です。インドの弁護士&弁理士双方の資格を持ち、特許を含む知的財産関連の法的経験が10年以上あります。専門は化学工学で、デリー弁護士会所属。首都ニューデリーに住み、英語、ヒンディー語、パンジャブ語が堪能で、日本語に関する基礎知識も有します。趣味は、ドキュメンタリーを観たり、読書したり、詩を書いたりすること。学生時代にはクリケット部員でしたが、今はたしなむ程度で、もっぱら観戦。